

(8) 大阪湾における転送効率解析

予算

国立大学法人広島大学業務委託事業

概要

本事業は、環境省環境研究総合推進費「S13持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」において、瀬戸内海の栄養塩濃度管理手法開発について調査研究を行っている広島大学からの業務委託である。瀬戸内海の栄養塩レベルが低下するなかで、瀬戸内海一括の水質中心の管理ではなく、「湾灘管理を基本とする健全な物質循環と高い生物生産性」を目指した沿岸管理手法の開発が必要と考えられている。ここでは大阪湾における生物生産性を評価・モデル化する上で必要な、栄養塩からプランクトン食性魚までの生産構造（転送効率）を明らかにすることを目的とする。2017年は、2014年度、2015年度、2016年度に引き続き、現場海域の植物・動物プランクトン出現状況調査を実施するとともに、公共用水域調査で採取されたカイアシ類、繊毛虫について現存量および生産速度の計算を行い、転送効率を計算した。

担当者

山本圭吾